

# 赤色防虫ネットによる葉ネギのアザミウマ防除

上山 博・灰方正穂<sup>\*</sup>・片岡光信・天野 久（京都府病害虫防除所）  
（<sup>\*</sup>現京都府農林水産技術センター）

ネギアザミウマは、ネギの葉身部を加害し、著しく商品価値を低下させる。本種は主として薬剤防除がされているが、各地で感受性の低下が報告されている。施設栽培では防虫ネット等を用いた物理的防除が効果的であると報告されているが、露地栽培ではほとんど報告がない。そこで、キャベツ育苗においてアザミウマ類の防除に効果がある赤色防虫ネット被覆によって、露地での葉ネギ栽培におけるネギアザミウマの防除効果とネギの生育状況に対する影響を調べた。

## 【調査方法】

試験は、2012年4月～6月（以下「試験1」）および7月～9月（以下「試験2」）に、京都府亀岡市の京都府病害虫防除所内の露地ほ場で行った。

試験1では、5月8日にネギ（品種：黒千本）を株間20cm×条間20cmで3条に定植した。定植直後にグラスファイバー製ポールで弓状に不織布で覆い、5月25日に不織布の代わりにサンサンネットe-レッド（目合い0.8mm）（以下、赤色ネット区）、サンサンネットソフライト（目合い0.8mm）（以下、白色ネット区）で被覆する区および無被覆区の3処理区を設けた。5月25日から6月22日まで1週間毎に5回、ネギアザミウマの寄生成幼虫数および被害程度を5段階に分類し見取り調査をおこなった。また、6月25日に収穫し草丈および葉色（SPAD値）等を測定した。

試験2では、8月10日にネギ（品種：黒千本）を株間15cm×条間20cmで2条に定植した。試験2では葉がネットへ接触することを防ぐため、被覆支柱は直管パイプを「コの字」（上辺50cm、高さ85cm）に曲げ、地上高が70cmになるようにした。定植直後にネットで被覆し、試験1と同様の3区を設けた。9月28日にネギアザミウマの寄生成幼虫数、被害程度および生育状況を調査した。

## 【結果および考察】

試験1では、定植約1ヶ月後の6月22日には、無被覆区の寄生虫数（匹/株）と被害程度は、それぞれ20.0と3.8であり、赤色ネット区では1.5と1.6、白色ネット区では9.5と2.8であった。収穫時の調査では、赤色ネット区および白色ネット区が無被覆区に比較して、草丈は有意に高く、SPAD値は有意に低かった。

試験2では、無被覆区の寄生虫数（匹/株）と被害程度は、それぞれ6.0と1.3であり、赤色ネット区では0.5と0.6、白色ネット区では4.1と1.2であった。寄生虫数および被害程度の平均とも赤色ネット区が他の区に対して有意に低かった。草丈は赤色ネット区および白色ネット区が無被覆区に対して有意に高かった。SPAD値は各区の間で有意差は認められなかった。

これらの結果から、赤色ネットの被覆は、葉ネギ栽培においてネギアザミウマの寄生および被害を軽減することが示唆された。一方、被覆によって草丈は高く、葉色は薄くなる傾向が見られた。